

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第47週（11月22日～11月28日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 増加続く」

第47週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は 2,053例であり、前週比 3.0%減であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で前週と変わりはなく、定点あたり報告数はそれぞれ 5.36、3.37、0.62、0.31、0.30である。

感染性胃腸炎は前週比 15%増の1,055例で、大阪市南部8.11、大阪市北部7.00、南河内6.69、北河内6.65、三島6.19であった。

手足口病は17%減の663例で、南河内5.63、大阪市南部5.50、中河内5.30の3ブロックが警報レベル基準値5を超えている。

ヘルパンギーナは26%減の123例で、南河内1.25、泉州1.15、大阪市北部0.86であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は6%減の62例で、中河内1.30、泉州0.50、南河内0.31である。

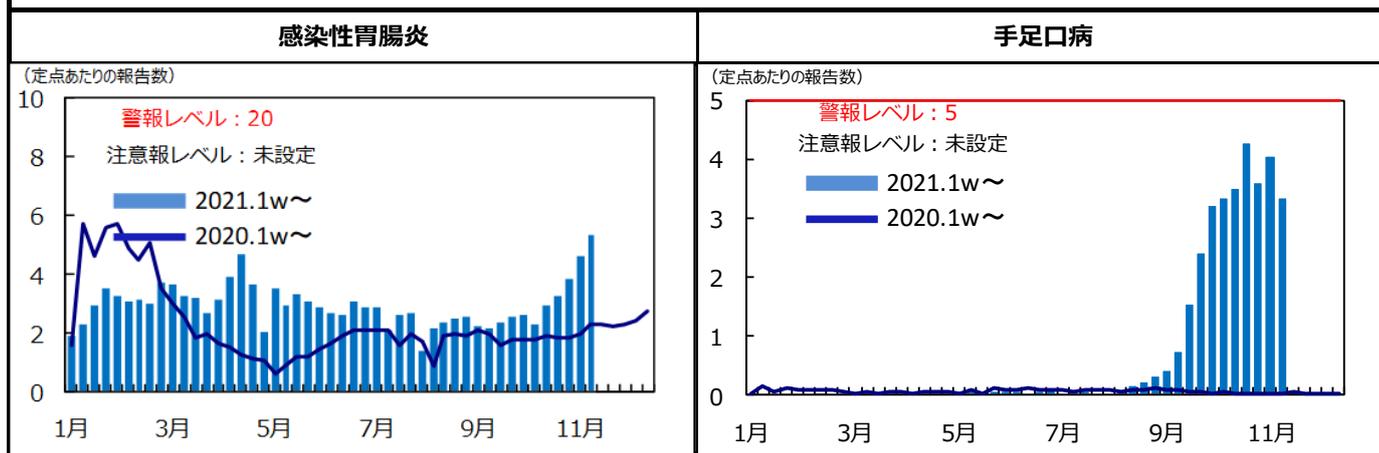


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第47週11月22日～11月28日）

第47週の順位	第46週の順位	感染症	2021年 第47週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第47週の 定点あたり 報告数	2021年第47週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	5.36	15%増	2.26	2歳_19%
2	2	手足口病	3.37	17%減	0.04	1歳_41%
3	3	ヘルパンギーナ	0.62	26%減	0.28	2歳_38%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.31	6%減	0.66	2歳_18%
5	5	突発性発しん	0.30	7%増	0.40	1歳_53%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.00		0.01	4歳(1例)_100%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第47週のコメント

～バンコマイシン耐性腸球菌感染症～ 2020年の大阪府の報告数は、22例であった。

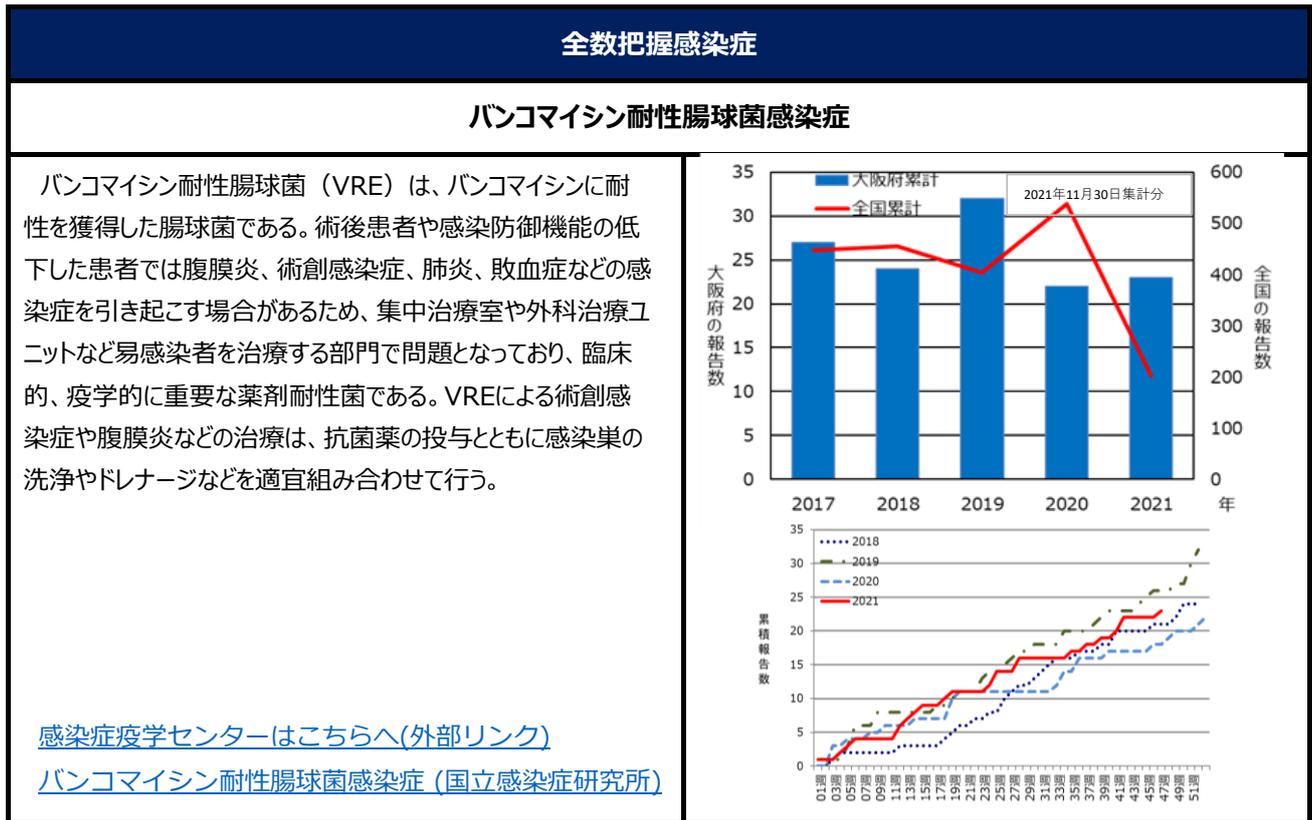


表2. 大阪府全数報告数（2021年 第47週11月22日～11月28日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村							府内累積報告数	
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州		大阪市
4類感染症	つつが虫病	1							1		2
	レジオネラ症（肺炎型）	2				1				1	126
5類感染症	アメーバ赤痢	1								1	40
	ウイルス性肝炎	1								1	16
	カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症	4		1		2				1	169
	後天性免疫不全症候群	1								1	95
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1								17
	梅毒	8	1			1	1			5	738
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1								1	23
百日咳	1								1	36	
新型コロナウイルス感染症	86	2020年1月以降累計 203,113									
結核 (2021年9月分)	結核 新登録患者数：73名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 35名) (府内累積報告数 832名、内 肺・喀痰塗抹陽性 323名)										

(2021年11月30日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。